

ブラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ 【2022年9月6日放送分・北六番丁／木町通】

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩きの達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱＝辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。

- 芭蕉の辻から奥州街道(現在の国分町通)を北上する旅。今月は東北大学病院の北東角、北六番丁と木町通の辻標からスタートです。

- 北六番丁は、へくり沢と呼ばれた谷(青葉区広瀬町・八幡界隈)から宮町までの東西に長い通りです。「丁」の字を書くので、侍の街ということが分かります。木町通は、南側の本材木町(青葉区立町)や北材木町(春日町)など、木を扱う町に通じることからこのように呼ばれました。現在では、拡幅されて大通りとなっています。

■ 実は、伊達政宗が整備した「四ツ谷用水」が、今も北六番丁の地下を流れているということで、今回は北六番丁を東に歩いてその痕跡を探りました。北六番丁は、奥州街道(青葉神社通)と交わる手前で右に少し不自然によれ、さらに片側2車線に拡がって東の上杉方面に向かいます。この変化にも四ツ谷用水が大いに関係しています。おそらく標高がストンと下がる所で用水の勢いがつくため、安全のため流路を広げた名残だと、木村浩二さんは言います。また、ここから東側で四ツ谷用水は「桜川」という名前で呼ばれ、両岸には桜並木があったことも昔の写真で分かるそうです。昭和の初めに道路でフタをされて暗渠となり、桜並木も失われてしまいました。

■ 北六番丁はさらに東に進むと大通りとなり、愛宕上杉通との交差点の南西角には「桜川」が道の真ん中を流れていた頃の橋＝上杉山橋の名残である親柱(写真)が、今も残されています。ぜひ現場を訪れて、妄想の中で水音を聞いてみてくださいね！



〈文・佐々木淳吾〉